

1 はじめに

新入生が、幼児教育から小学校教育へと円滑に移行するためには、入学当初の指導が重要である。児童が安心して学校生活をスタートさせ、主体的に自己を発揮しながら新しい生活を創り出すことができるようなカリキュラムの構成と、一人一人の経験や幼児期の教育を踏まえた細かい指導が必要となる。

ここでは、学校生活を経験している2年生と、これから学校生活をスタートする1年生が同じ教室で学ぶという複式学級のよさを生かした入学当初の実践例を紹介する。

2 実践例

(1) 入学直後の学習指導      : 1年生配慮事項      : 2年生配慮事項

	朝自習・朝の会	学年	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目
2 日 目	お絵かき 自分の好きなものをクレヨンでかく。 幼児期に親しんできた活動を取り入れ、安心して活動できるようにする。 2年生の様子を見ることが出来る座席配置にすることで、1年生が見通しをもって活動できるようにする。	1年	学活 たのしいがっこう 互いのことを知り、みんなで仲よく遊ぶ。 朝自習でかいた絵を紹介しながら、互いのことを知るきっかけをつくる。	学活0.5 行事0.5 身体測定 自分の発育や健康状態に関心をもつ。 2年生が手本となって身体測定を受けられるように、2年生から実施する。	児童会 分団会 通学班の上級生と学校生活について話し合う。 1年生は場所に慣れていないため、移動教室については上級生が案内するようにして、安心感をもたせる。	片付け・下校 国語 じゅんばんにならぼう	生活 学校探検の計画
		2年	自分の好きなことをもって、学校では、どこでそれが出来るかを2年生が教える場をつくり、一緒に遊ぶ。 トイレの使い方や、けがをしたときの対処など、学校生活のルールを必要に応じて伝えていく。	衣服のたたみ方、保健室への入室の仕方、身体測定前後の挨拶や返事等を個に応じて指導し、学校の公共性に目が向けられるようにする。 ※幼児教育においても身体計測は実施している。個々の経験を教師は把握しておく。	1年生の下校準備と重なる時間(約10分)は、既習漢字の復習や自力解決の時間など、間接指導となるように、2年生の授業展開について事前に計画しておく。個の学習進度に対応できるように、ワークシートやヒントカードなどを十分用意しておく。		
3 日 目	読書 読みたい本を選んで読む。 様々なジャンルの本を数多く用意し、個々の興味・関心に応じて読書が楽しめる環境をつくる。	1年	学活 あかるいあいさつ みんななかよく 気持ちのよい挨拶を交わし、仲よく遊ぶ。	生活 がっこうだいすき(学校探検) 1年: 学校の中の施設や人に関心をもち、学校の様子に気付く。 2年: 1年生を案内し、上級生として役割が増えたことを実感する。		片付け・下校 国語 ふきのとう	算数 ひょう・グラフ
		2年	朝の会から1時間目に掛けて、幼児期に親しんできた遊びや活動を取り入れたり、友達と仲よく遊んだりする時間をつくり、楽しく一日を始めることができるようにする。		子どもの実態や活動に応じて、モジュール学習や2時間続きの学習にするなど、時間配分を工夫する。		
4 日 目	読書 読みたい本を選んで読む。 漢字練習 既習漢字の練習をする。	1年	書写 ただしいしせい 姿勢や鉛筆の持ち方に気を付けて、線をかく。 入学当初の1年生は、鉛筆や教科書を使う学習への憧れをもっている。その思いを大切にしながら学習を計画する。	音楽 おんがくにあわせて 曲に合わせて身体を動かしたり、手遊び歌を楽しんだりする。	体育 ゆうぐあそび ルールを守り、安全にみんなで仲よく遊ぶ。	片付け・下校 算数 ひょう・グラフ	国語 ふきのとう
		2年	姿勢や鉛筆の持ち方など、2年生の様子から気を付けたらよいことを考えさせ、そのことに意識して取り組むことができるようにする。	学校探検を振り返り、もう一度行ってみたい場所や使ってみてみたいもの、不思議だと感じたりやってみてみたいと思ったりしたことを話し合いながら、音楽、体育、図画工作の学習を進めるなど、学習活動(教科)の配列を工夫する。		単学年での活動の際に、上級生として1年生に接している様子を具体的に伝えて認めるなど、2年生の自己有用感が高まるように働き掛ける。	

## (2) 4月の生活指導

生活指導については、1年生が必要感を感じられるように、機会を捉えてタイミングよく指導することが大切である。

また、幼児期の学びを教師が理解しておくことも重要である。幼児期の生活の中で身に付けている習慣は多くある。教室環境や生活のリズムの変化など1年生の戸惑いがどこにあるのかを見極めて、学習環境を整えたり指導したりするとよい。

### ア 所持品の片付け、整理整頓ができる

2年生が同じ教室にいることを生かす。2年生が所持品を片付ける様子を見ながら自分で片付けたり、2年生が手伝いながら徐々に自分でできるように促したりする。

また、整理整頓していると次時の学習の用意が短時間でできたり、探したいものがすぐに見付かったりといったよさがあることを実感させ、整理整頓の習慣が身に付くように働き掛ける。

### イ 生活のリズムを整える

一日の予定や活動の手順が、文字や絵、写真などで提示されることで、見通しをもち、安心して活動することができる。計画表も文字だけでなく、イラストなどを取り入れるとよい。学級表示やトイレ表示などは、1年生の目の高さに設置する。音声言語だけでは内容や指示が十分に理解できない1年生も迷わず活動することができる。

### ウ 適切な挨拶や言葉遣いができる

少人数の学校では、全教員、全児童が顔見知りとなり、時と場に応じた挨拶や言葉遣いができにくいことがある。

教師自身が率先して挨拶をしたり、授業中と休み時間の区別を意識して丁寧な言葉で話したりすることにより、1年生はそれをモデルとして振る舞うことができる。

### エ 返事をする

朝の会の健康観察の場面で指導する。毎日、繰り返される場なので、継続することで定着が図られる。2年生から健康観察を行って手本を示すことで、安心して返答できる場をつくる。

慣れてきたら、声の大きさについても指導する。

### オ 正しい姿勢・鉛筆の持ち方ができる

書写の時間（(1)入学直後の学習指導 4日目の1時間目を参照）に指導する。1年生と2年生をペアにして、互いの姿勢や鉛筆の持ち方を見合って確認する場面をつくるなど、友達同士の学び合いを促すことも大切である。

機会を捉えて、書写の教科書に掲載されている「字を書く姿勢と鉛筆の持ち方」を確認しながら意識させる。

### カ ルールやマナーを守る

ルールやマナーを守ることで互いに気持ちよく生活できる体験を重ねられるように、学校生活全体を見直し、そうした場面（ルールのある遊び、給食の受け渡しなど）を大切にする。

複式の学習指導時のルール（他学年の児童に指導中は話し掛けない、声の大きさなど）は、その都度、行動の意味を伝えながら指導するとともに、間接指導時に自分で学習できる環境を整えておく。